

キャリアマネジメント(Ⅰ)学習指導案

指導者 小田原 舞(T1) 檜和田祐介(T2)

日 時 平成 25 年 11 月 30 日 (土) 第 3 校時 13:15~14:05

年 組 中学校全学年 3 組 計 19 名

第 1 学年	男子 5 名, 女子 1 名	計 6 名
第 2 学年	男子 4 名, 女子 2 名	計 6 名
第 3 学年	男子 4 名, 女子 3 名	計 7 名

場 所 中学校マルチルーム

単 元 共同から協同へ ～課題学習システムを使って～

単元について

特別支援学校卒業者の企業等への就職は依然として厳しい状況にあり、障害者の自立と社会参加を促進するため、企業や労働関係機関等との連携を図った職業教育や進路指導の一層の改善が求められている。これまで、社会の変化、児童生徒の実態の多様化、高等部への進学率の上昇に伴い障害の状態が軽度から重度まで幅広くなっていることなどを踏まえ、一人一人に応じた指導をより適切かつ効果的に進める観点から、改善すべき点は何か、職業的な自立を一層促進する観点から、改善すべき点は何かといった課題の解決・改善に向け学習指導要領の改訂が行われてきている。新学習指導要領ではその改訂のポイントとして、自立と社会参加を推進するため職業教育等の充実、があげられ、特別支援学校（知的障害）における職業教育を充実するため、高等部の専門教科として「福祉」を新設、地域や産業界と連携し、職業教育や進路指導の充実を図ることを規定されるなどしている。さらに、特別支援教育の中等教育段階では、全教育活動を通じてキャリア教育の視点を踏まえた実践の充実が求められている。

「働くこと」は経済的自立を達成する手段であるとともに、自己実現にもつながる重要な社会参加である。学校を中心とした生活から、就労を含む社会生活への移行期である中等教育段階において、自己を適切に把握し、将来の自分を具体的に考えていくことや、就労に対する意欲や社会生活に必要なマナーやスキルを身に付けていくことは、特別支援教育におけるキャリア教育の推進において重要な視点であると考えられる。

今年度、本校は文部科学省の研究開発学校の指定を受け、平成 28 年度までの計画で「中学校特別支援学級における社会的・職業的自立を目指した、生活力を育成するためのカリキュラムの研究開発」に着手した。

本学級ではこれまでの 4 年間に社会参加と自立の視点から指導内容の見直しを行い、新たなスタイルの職場体験学習や、合わせた指導の形態である作業学習の在り方に関する研究を行い、自己肯定感を持ち、将来、働きたいという意欲を高めることに成果を上げてきた。一方で、生徒の社会的・職業的自立を目指した指導内容は多くの教科・領域に含まれており、整理していくことが必要であると考えている。そこで、今年度は指導内容を整理し、教育課程およびカリキュラムの見直しを行い、新たに「キャリアマネジメント」として実施することとした。現段階では、キャリアマネジメントにおいて指導する内容は多岐にわたるため、便宜的にキャリアマネジメントⅠ・Ⅱ・Ⅲの区分を設けている。キャリアマネジメント(Ⅰ)では、「職業生活のための課題学習システム(ワークシステムを用いた学習システム)」に

よる職業基礎の指導と、「ビジネスマナー」による社会生活に必要なマナーやスキルの指導を行うこととする。課題学習システムを用いた学習では、一つひとつの課題を行うこと自体は単純であるにもかかわらず、反復学習をする、課題を仕事として意味づけするなど、その活用方法によって、生徒の実態に応じた様々な力を伸長させることが可能である。1年生では、行う課題を選択したり、何日間で何個の仕事をいつ行うのかなどを自らプランニングした上で、課題をこなしたりしていくなど、自己選択力や自己決定力の向上につなげていく。2年生では、課題の完成度、課題遂行時の間違い、やり直しの有無、分からないことに対する自分の対応について、課題終了ごとにチェックし、本来の自分の姿を認識し、それを自分で認めていくことができる力の向上につなげていく。3年生では、チームを組んで仕事を行いながら、自分の仕事に責任を持ったり、想定外のできごとを自分たちで考え乗り越えたりすることができる力の向上につなげていくなど、学年段階に応じて自己選択力、課題遂行力、完成度の把握力、自己把握力の向上を目指した指導を行うことができる。

本学級の生徒の実態として、「主体的な行動が少ない」、「難しいと思ったことや初めて取り組むことに対して消極的」、「指摘されることへの弱さ」、「相手の思いや気持ちを受け入れることが難しい」、「分からなかったことを質問するなど確認作業がうまくできない」、「自分中心で自制心が働かない」などの姿が見られる。生徒たちの将来を考えた時、社会の中で何らかの集団の一員として生活していくことが想像されるが、これらの実態は、将来社会の一員として、集団の一員として生きていく中での困難となり得るものと考えられる。本学級の生徒は、課題学習システムによる学習に意欲的である。この学習に取り組むにあたっては、「課題をする＝仕事をする」という設定とし、課題終了ごとにポイントを受け取ることができる制度を導入している。仕事であるため、取り組んだ課題の完成度が厳しく要求され、一定の完成度に達しないとやり直しが数回に及ぶこともあるが、あきらめることなく、粘り強く課題に取り組むことができる。

指導にあたっては、サイレント、分からないことは質問する（分からないことを放置したり、自分の判断でそのまま行ったりしない）等の各学年共通のルールを徹底するとともに、仕事であるとの意識づけに必要な言葉かけを意識的にを行い、将来の働く生活の意識づけやイメージ作りにもつなげたいと考える。また本単元では、3年生をリーダーとする学年縦割りの3～4名からなるチームを作り、課題を達成していくこととする。現在、課題学習システムにはそれぞれ番号がつけられた約60種の課題があり、今回はその中から48種を、各チーム共通の仕事とし、チーム員で分担して完成させていく。仕事の遂行自体は、個々で行うものであるが、集団で行うことから、下級生にとっては手本となる上級生がおり、学習の見通しが持ちやすくなること、また、上級生にとっては、下級生とペアになり伝えたり教えたりする中で新しい視点を得たり、やり取りの中で頼りにされることを味わうことで、役に立つ自分をより感じるができると考えられる。集団の中で個々が自分の課題をこなしていくことを土台としながら、お互いが関わり合う場面や協力して目標を達成していく場面を設定し、集団の一員としての自分にも気づかせることができるようにしたい。

指導目標

1. 課題遂行のルールを理解し、集中して課題に取り組むことができるようにする。
2. チーム内での役割を理解し、分担した課題を計画通り完了できるようにする。

指導計画 （全 13 時間）

- 1. 各課題の確認練習 1 時間
- 2. 課題遂行の新たな方法の理解 1 時間
- 3. グループ内会議・課題担当分担 2 時間
- 4. 仕事の遂行 8 時間（本時はその 6 時間目）
- 5. まとめ 1 時間

本時の目標

一人ひとりが責任を持って自分の役割を遂行することができる。

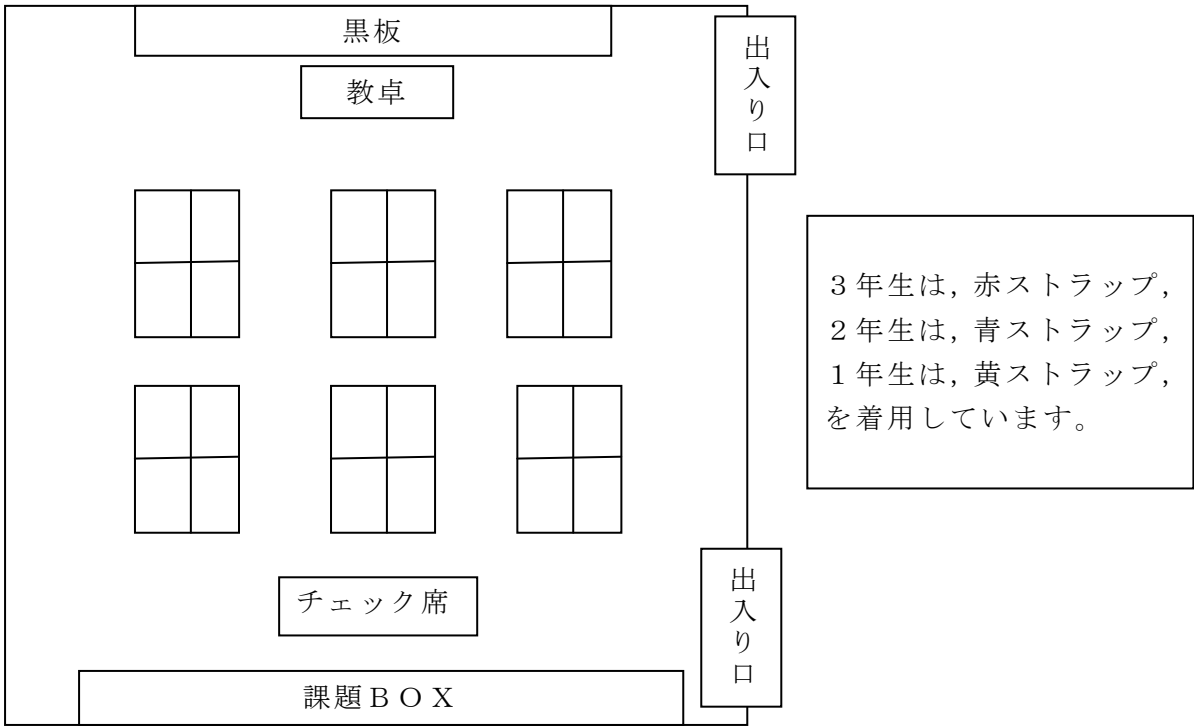
学年	目標
1 年生	自分の担当課題が分かり，作業が正確にできる。
2 年生	計画に沿って課題を完了し，振り返りが正確にできる。
3 年生	チーム全体の仕事内容を把握し，指示や確認が正確にできる。

学びのつながりの視点

小学校段階で育んできた基本的な自尊感情を踏まえ，他者とのかかわりの中で自分の力を発揮して活動に取り組むことで，社会的な自尊感情を育むことができるかを，実践を通して検証する。中学校卒業時の「自分の役割を自ら果たそうとする生徒」像をめざし，小中 9 年間の目標行動として 5 つの Stage を設定し，授業づくりを進めることとした。中学校段階では特に Stage 4（集団の中で協力して課題に取り組み遂行しようとする生徒）Stage 5（自分の役割を，責任を持って果たそうとする生徒）とし，その具体的な姿を目指す。

準備物 各課題，各課題一覧表，仕事分担確認票（3 年用），
仕事課題振り返り表（2 年用），仕事スケジュール表（個人），
確認印，ポイントシール，仕事完了確認カード（チーム用）

座席表



学習の展開

学習活動 (□) と支援 (●)				指導上の留意点(◆評価)
準備 (3分)	1年生 (支援は主にT 2が行う。)	2年生 (支援は主にT 2が行う。)	3年生 (支援は主にT 1が行う。)	○サイレント、質問などのルールを意識させる。
	仕事開始の準備			
展開 (42分)	□挨拶後、机をチーム所定の位置に移動する。 ●サイレントでの移動、通路の確保を促す。			○個々の仕事をきちんと行うことが、チーム全体での目標達成につながるということを意識させる。
	スケジュールの確認・仕事の開始			
まとめ (5分)	□スケジュール表で、担当する課題番号を確認し、3年生に伝える。 □仕事を開始する。 ●番号確認に迷う、仕事が進んでいない、などの様子が見られたら、3年生に聞くように促す。 □完成した仕事の完成度を3年生に確認する。 □完成度に達していない場合は、やり直しを行う。 ●3年生からの指示を把握できているか確認する。 □T 1に完成した仕事のチェックを受ける。 ●課題の一部を行わせるなどして、やり方や完成度を理解できているか確認させる。 □合格の場合は、T 1からシールを受け取る。 自分のポイントカードとチームのポイントカードにシールを貼る。 □仕事を繰り返す。	□スケジュール表で、担当する課題番号を確認し、3年生に伝える。 □仕事を開始する。 ●番号確認に迷う、仕事が進んでいない、などの様子が見られたら、3年生に聞くように促す。 □T 1に完成した仕事のチェックを受ける。 □完成度に達していない場合は、やり直しを行う □仕事課題振り返り表に記入し、T 1に提出する。 ●表への記入状況をもとに問い返し、確実に振り返らせる。 □合格の場合は、T 1からシールを受け取る。 自分のポイントカードとチームのポイントカードにシールを貼る。 □仕事を繰り返す。	□チームの仕事分担確認表と、チーム員からの報告を合わせて、本日のチームのスケジュールを確認する。 □チーム員に仕事の開始を告げ、自らも仕事を開始する。 ●チームのスケジュールが把握できているか確認の問いかけをする。 □1、2年生の質問に答える。分からない時には、指導者に質問するように伝える。 □1年生の仕事の完成チェックを行う。 修正点がある場合には伝える。 ●確実にチェックを行うよう促す。 □自分の仕事が完成したら、T 1に完成した仕事のチェックを受ける。 ●完成度に達していない場合、修正点を確認させる。 □合格の場合は、T 1からシールを受け取る。 自分のポイントカードとチームのポイントカードにシールを貼る。 ●チームのポイントが増えたことをみんなで共有するよう促す。 □仕事を繰り返す。	○1、2年生からの質問は、3年生に聞くように促すが、内容によっては、指導者が3年生に返答のヒントを伝えたり、直接答えたりする場合もありとする。 ○チームのポイントが増えた時には、チーム員全員で確認させ、喜びを共有できるようにする。 ◆1年生：自分の担当課題が分かり、作業が正確にできているか。 2年生:計画に沿って課題を完了し、振り返りが正確にできているか。 3年生:チーム全体の仕事内容を把握し、指示や確認が正確にできているか。
	振り返り・仕事の終了・片づけ			
	□チームで振り返りをする。 □課題の片付け、机の位置を戻して終了する。	□チームで振り返りをする。	□チームの振り返りの進行をする。 ●よかったことも伝えるよう促す。	

